

指導教員名	山口 志郎
-------	-------

活動区分	イベント実施・運営型	連携先	企業
	情報分析型		
	調査型		

～ NTTドコモレッドハリケーンズ大阪観戦者調査プロジェクト ～



活動の様子

企画・活動概要

本社会共創活動では、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪と協働しながら、スタジアムでの観戦者調査を行い、集客増に向けた基礎資料を得ることを目的とした。本企画は2022年度からの継続的なプロジェクトであり、2023年度は4月1日にヤンマースタジアム長居にてアンケート調査を行った。収集したデータを分析し、5月27日に兵庫体育・スポーツ科学学会において3題ポスター発表を行った。その後、学会のポスター発表をもとに、観戦者調査のデータを再分析し、報告書を作成しながら、7月11日にレッドハリケーンズ大阪のスタッフに対して、報告会を実施した。

経緯・背景・目的

流通科学大学では、2022年12月16日にNTTドコモレッドハリケーンズ大阪と、教育・スポーツ振興に関する連携協定を締結した。本協定は、教育・研究・医療・文化およびスポーツの振興、人材育成、社会貢献などの分野において相互に協力し、双方の発展と充実に寄与することを目的としている。本社会共創活動では、連携協定の一環としてNTTドコモレッドハリケーンズ大阪におけるスタジアムでの観戦者調査を通じて、マーケティング分析のサポートを行うことになった。なお、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪は、2023年7月より名称変更し、「レッドハリケーンズ大阪」に生まれ変わった。



取り組む課題

ジャパンラグビーリーグワンは3つのDivisionに分かれており、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪はDivision3に在籍している。2021年度までチームはDivision1に在籍していたが、母体企業のNTTドコモの編成上の理由により、2022年度はDivision3からの戦いとなった。Division1に比べ、観戦者数が減少するなど運営上の問題を抱えており、今後どのようにファンを獲得し、持続可能なチームにしていかが課題である。そのため、今回の観戦者調査を通じて集客増に向けた基礎データを獲得することで、今後のマーケティング戦略の立案が可能となる。

本学(学生)の役割

ゼミ生の役割はスタジアムでの観戦者調査に向け、アンケートの設計を考えると、4月1日にヤンマースタジアム長居においてアンケート調査を行うことだった。当初はQRコードの読み取りによるオンラインアンケートのみを計画していたが、観戦者の属性や先方とのミーティングを踏まえ、最終的にオンラインと紙の両方を用いるハイブリット調査を実施することになった。スタジアムでのアンケート調査では当日配布するマッチデープログラムと共に、紙のアンケート(QRコード付き)を袋に封入し、入場口で配布すると共に、試合終了後退場口にてアンケートの回収を行った。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

今回プロジェクトに参加したゼミ生は3回生であり、前年度の3月12日に続き2回目のアンケート調査であった。2023年度は得られたデータを基にSPSSによるデータ分析を行い、分析力を養うことに尽力した。また、学会発表や担当者に対して、プレゼンテーションを行うことから、ポスターやパワーポイント作成などプレゼンテーション能力向上もゴールに設定した。その結果、上記の2つの能力を身につけると共に、兵庫体育・スポーツ科学学会では2チームが学生優秀発表賞・優秀賞を受賞するなど、形としての成果もあげることができた。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
准教授
山口 志郎 (ヤマグチ シロウ)

<専門・担当科目等>
スポーツマネジメント、イベントマネジメント、スポーツツーリズム

<関係者・企業等>

レッドハリケーンズ大阪 プロモーション 兼
広報
オ口 将太 (サイグチ ショウタ)